



地域の夢

山古志地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための山古志地域の方針と活動

山古志地域は、こんなところ

■山古志村の成り立ち

山古志村は新潟県のほぼ中央に位置し、面積 39.83km² 人口 2,300 人。周囲を山に囲まれた村です。全国的にも珍しい一郡一村の村で、古くは天領として桑名藩下にありました。明治 4 (1871) 年の廃藩置県により柏崎県に含まれ、同 6 年に新潟県と柏崎県の合併により新潟県の管轄になりました。当時は広大な郡であった古志郡ですが、昭和 31 年の昭和の大合併により、郡下の多くの村は長岡市、栃尾市に集積。残った村もそれぞれ合併、新しい村となり、古志郡には山古志村のみが残ることになりました。村名は、古志郡の山間にあり、山古志郷の通称があったことからつけられました。

山古志地域の方針と活動 (右頁参照)

山古志地域において「新市地域らしさ価値」を高めるための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。



■錦鯉の里

錦鯉発祥の地・山古志村。錦鯉の養殖は 200 年の伝統に裏付けられた固有の伝統産業として今に受け継がれ、多くの人が携わっています。錦鯉の総養殖面積は 136ha。錦鯉生産者は 185 世帯、そのうち約 50 世帯が専業で、いまや錦鯉は村を象徴する産物になっています。世界的な知名度も高く、

アメリカやヨーロッパにも輸出されています。

錦鯉による交流も盛んで、品評会には各地から多数の訪問者が多く、錦鯉を養殖する棚池や棚田の景観美

とともに、観光の資源となっています。

また、棚田や棚池ではクロメダカやタガメ、ゲンゴロウなどが生息しており、都会では見られない生き物に出会えます。



1 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

山古志地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・固有の技や誠実さの歴史を守り、伝えていくことで地域住民のこだわりの技への取り組みを広くアピールする
- ・独創の精神に触れる場として、また、圧倒的な自然を通して分野にこだわらない新ながおかの独創企業人の育成を支援していく

—実現すべき山古志の姿— WILL

■山古志地域整備・活動方針

自然美、人間美から生まれる究極ブランドを守り、育て、独創企業に提供していく地域

- ・新ながおかのものづくりに対する“独創性”を歴史・伝統で裏付け、自然環境を活用し支援する地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 伝統の技に科学技術を付加した究極の山古志ブランドづくり
- 原産地(錦鯉)で培われた育てる・見極める技術の継承と産業化への活用

発信する

- 山古志ブランドの多様なジャンル(写真・音楽)…でのプロモーション展開
- 自然・人間がつくってきた独創地域のものがたりづくりと、全国への発信

育てる

- 自然体験を活用した、企業人育成プログラムの開発

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

錦鯉

- 錦鯉生産者185世帯、総養殖面積136ha、止水式溜池養殖(棚池)
 - ・錦鯉発祥の地であり200年の実績に裏付けられた固有の伝統産業
 - ・棚池の景観
 - ・こだわりの生産技術で世界的知名度が高い
 - ・約50世帯が専業であり、棚池とのかかわりからも地域の独創を象徴する産物といえる

天水田自然乾燥コシヒカリ

- 約165haのうち30haが自然乾燥のはざかけ米
 - ・天水田(汚染のない自然水)と自然乾燥(はざかけで日光に当たると糖度が増す)によりつくられるまぼろしのコシヒカリ
 - ・棚田の景観美は国の宝として農地保全の支援を受けている

手掘り中山隧道

- ・村民の不屈の精神が生み出した日本一の手掘り隧道
- ・生活・命をかけた業は、多くの人の共感を受けている(全国約1,900名の基金支援者)



2 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

山古志地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・耕作地100パーセントの棚田・棚池を保全し、こだわりの食を発信する
- ・地域を訪れた人が享受できる仕組みづくり
- ・体験型の米産地としての地域づくりを進める

—実現すべき山古志の姿— WILL

■山古志地域整備・活動方針

自然にいだかれた技と人の汗が創り出す、安心安全食の体験地域(来て、見て、食べて)

- ・伝統の食づくりを守り続け、人々に感動を与える地域イメージ発信地となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 山古志“食”ブランドの確立によるファンの獲得と、棚田保全への展開(オーナー制度、特区制度など)

発信する

- 棚田・はざかけ等、農山村の原風景保全とPR展開
- 雪中貯蔵技術の活用による、新たな魅力食の提供

育てる

- 農業体験プログラム開発と地域体制づくり

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

天水田自然乾燥コシヒカリ

- 約165haのうち30haが自然乾燥のはざかけ米
 - ・天水田(汚染のない自然水)と自然乾燥(はざかけで日光に当たると糖度が増す)によりつくられるまぼろしのコシヒカリ
 - ・棚田の景観美は国の宝として農地保全の支援を受けている

かぐら南ばん

- 形はピーマンで食すると辛い
 - ・山古志村の土質、気候が生み出す独特の辛味がある
- 生産高が急成長
 - ・加工品への需要も高い

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

山古志地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・ 自然と融合した生活、伝統を守り、未来人に伝えていく

—実現すべき山古志の姿— WILL

■山古志地域整備・活動方針

未来人を育む地域全体 フィールドミュージアムの創出

- ・ 生活から生まれた圧倒的な自然と燃え上がる体験を通して、未来人の感性を育む地域

実現していくための活動・展開

見極める

- フィールドミュージアムを構成する資源、歴史、伝統を守り育てていく活動の促進

発信する

- 固有の景観や生活行事を守りつづけるネットワークづくりと発信

育てる

- 未来人の心を育てる、大人たちを含めた自然体験学習プログラムの開発

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

特徴ある自然景観・棚田

●耕作地100%棚田

- ・ 村内全体が棚田という他地域にない特徴ある生活・自然景観
- ・ 景観美の知名度は高く、文化庁による農村の文化的景観重要地域の指定を受けている
- ・ 日本景観学会現地研修会会場にもなっており、学術的にも評価が高い
- ・ 1軒1水源という固有の水とのかかわりを持つ

都会では見られない生き物たち

- ・ 棚田・棚池では、クロメダカ・タガメ・ゲンゴロウなどが生きる

固有の生活行事

- ・ 牛の角突き、賽の神など、住民が熱くなる感動がある

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

山古志地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・ 地域の環境・伝統を守りつづけ、共感を持つリピーターの裾野を広げていく
- ・ オフシーズンも含めた地域住民とのおだやかな交流を展開する

—実現すべき山古志の姿— WILL

■山古志地域整備・活動方針

何度でも来たくなる “こころ”和らぐ資源特別区

- ・ 都会の生活では触れることのできない原風景や文化、伝統を伝える地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 様々な地域資源が一体となった山村文化のブランド化
- 様々な分野の交流による新たな交流資源の発掘活動

発信する

- 山村・雪国生活の多角的な発信

育てる

- 人材・情報ネットワーク活用により、地域の人たちが地域資源の価値について理解を深め、来訪者に提供する「もてなしのこころ」の育成

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

体験交流

- ・ 県内大学留学生の山村生活体験や小学生の雪中キャンプが行われる

一石会

- ・ 全国的に活動する酒飲み会への場の提供を行っている

錦鯉による交流

- ・ 県内での稚魚の放流（子どもの交流）
- ・ 品評会の来訪者（リピーター）

牛の角突き

- ・ 1000年の歴史を持つ住民による生活の中で生まれた行事
- ・ 牛の角突きは国指定重要無形民俗文化財に指定されている

棚田

- ・ 棚田は文化庁指定農村の文化的景観重要地域

村の人々

- ・ 豪雪地で住み続ける粘り強く、素朴な人々

もっと詳しく地域のか

山古志地域

2003年、NHKの朝の連続ドラマ「こころ」の舞台になり、一躍脚光を浴びた山古志村。山古志村の魅力は何といっても圧倒的な自然です。四季の移ろいも美しい棚田、棚池。優雅に泳ぐ錦鯉。山古志は村全体がミュージアムといっても過言ではありません。今後は写真や音楽などのプロモーション活動も展開、「何度でも行きたくなる村・山古志」を全国にアピールしていきます。

■村全体がフィールドミュージアム

山古志村の特色は、棚田・棚池に代表される農山村の原風景です。村内全体が棚田という他地域にない景観は、文化庁による「農村の文化的景観重要地域」の指定を受けているほか、学術的にも評価が高く、日本景観学会現地研修会会場にもなっています。

山古志村では、村全体がフィールドミュージアムというべき恵まれた自然と伝統的な生活環境を活かし、様々な地域資源を一体化した山村文化のブランド化を図っています。映像や音楽でのプロモーションを展開し、自然と人間が織り成す山古志村の物語を全国に発信。より多くの人に村を知ってもらい、一度訪ねたら、もう一度訪ねたくなるような村づくりに挑戦しています。

また、滞在型の観光地を目指す意味で、自然学習プログラムや農業体験プログラム開発、雪中貯蔵技術の活用による新たな魅力食の開発にも努めています。県内大学留学生の山村生活体験、小学生の雪中キャンプなどのイベントを通して、他地域との交流も積極的に進めています。



■棚田の四季

四季の移ろいも美しい棚田。山古志村の棚田の景観美は、日本の伝統的農村風景として全国的に有名。文化庁の農村の文化的景観重要地域に指定されているほか、日本景観学会現地研修会会場にもなっていて、学術的な評価も高い。



■手掘り中山隧道

山古志地域の人の力を象徴する手掘り隧道。村人が16年かけて掘り抜き、昭和24年に完成。1kmの手掘りでは日本一の規模で、平成10年に隣に新しいトンネルが開通するまで現役で使われていた。隧道掘りに携わった村人を中心としたドキュメンタリー映画がこのほど完成し、全国の小・中学校にこの映画を贈る運動も展開している。



■錦鯉

山古志村は錦鯉発祥の地。200年の伝統をもつ養殖は、固有の産業として今に受け継がれている。世界的な知名度も高く、山古志村からアメリカやヨーロッパへも輸出されている。



■牛の角突き

本州で唯一伝承されている牛の角突き。およそ千年の歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財にも指定されている。勇壮な様子は、滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」にも記されているほどだが、牛をむやみに傷つけることなく、戦いが最高潮に達した時に引き分けるのが特徴。5月から11月の期間、毎月1~2回開催される。